

来週の「売り物」記事はこれ



2016年10月14日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

「育つ力」を信じて 大阪西成こどもの里

16日(日)



現代は日本の子供6人のうち1人が相対的貧困状態にあるといわれます。親の自死や虐待に遭いながらも、生きていく子どもを支援する草分け的な団体がNPO法人「こどもの里」です。1980年、大阪市西成区のあいりん地区に施設は開設されました。支援の柱は子どもの力を重んじること。理事長の



庄保(しょうほ)共子さん(69)は「子どもたちはみんな、生まれながらに素晴らしい力を持っている。その力を失わないように寄り添い、手助けしている」と話します。学童保育や親と暮らせない子ども向けファミリーホームなどの居場所を保障する「里」の最大の特徴が、緊急一時宿泊機能を持つことです。虐待された子が「泊まらせて」と助けを求めてくれば、安心して眠れる布団をすぐに提供します。里に集い、巣立っていった若者や子どもたちを見守るスタッフに話を聞き、子どもの「育つ力」に迫りました。

日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待下さい。

気鋭のライター武田砂鉄さんの「深掘り」社会考

今、「言葉」に何が起きている？

夕刊特集ワイド 17日(月)



これもスマホ時代の反映なのでしょうか。「言葉」の暴走が目立ちます。ツイッターやブログで過激な表現が飛び交う一方、「いいね！」と過剰なまでに褒め合ったり、政治家が耳に心地よい物言いをして反論を封じたり。この社会に何が起きているのか。豊かな「言葉」を取り戻す術(すべ)とは——。昨年、「紋切型社会」を著して「Bunkamuraドゥマゴ文学賞」を受けた気鋭のライター、武田砂鉄さんと一緒に考えます。

幼児のスマホ漬け

くらしナビA面 21日(金)

スマートフォンで遊ぶ幼児の姿をよく見かけます。ある調査では、就学前の乳幼児の40%近くがスマホやタブレットでインターネットを利用しているといえます。しかし、幼少期からスマホを使いすぎると、生きたコミュニケーションが少なくなり、社会性が育ちにくくなるとの指摘も。子供がデジタルにどっぷり漬かると、どんな影響があるのかを考えます。



スーパーマーケット新事情

くらしナビA面 22日(土)



人々の生活に密着してきたスーパーマーケットが苦境に立たされています。価格面でディスカウントストアや100円ショップと競合し、利便性ではコンビニエンスストアやネット通販に押される総合スーパー。食品専門店で衣替えしたり、ネット注文による即日配達を受け付けたりと、工夫をこらして生き残ろうとしています。上手な利用方法を紹介します。

アレルギーフリー料理

くらしナビA面 18日(火)

「食物アレルギー」が増え続けています。ほとんどは乳児期に発症し、多くは年を経ると収まりますが、幼少期だからこそ食べる楽しみも覚えてほしいものです。アレルギーフリーの食材でも、おいしい料理を作ることはできます。食物アレルギーの人が多い「卵」「牛乳」「小麦」を使わずに作るメニューを、料理研究家の橋本彩子さんに教えてもらいました。



女の気持ちをたずねて



おんなのしんぶん 17日(月)



オバマ米大統領が広島で被爆者の男性をスマートにハグしたのを見て感激したという74歳の女性宅を記者が訪ねます。「主人にそっとハグしてもらったら今以上に幸せを感じると思う」と毎日新聞に投稿したところ、夫(79)は「全然関心ないなあ」と言っていたそうです。ところが、ある日、散歩に出かける前、握った手を引き寄せられ……。金婚夫妻の愛情物語です。

サービス付き高齢者向け住宅

医療・福祉面 19日(水)

安否確認などのあるサービス付き高齢者向け住宅(サ高住)の登録制度が2011年10月に始まって丸5年。国の補助金もあって都道府県に登録した件数は20万戸を超えました。政府は「介護離職ゼロ」を掲げ、さらに増やす方針ですが、介護の必要な入居者が多く、サービスや制度が実態に合わない指摘されています。現状と課題を報告します。



「論点 判決から1カ月」

視界不良！ 普天間飛行場「移設問題」

オピニオン面 [論点] 21日(金)



米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)の名護市辺野古への移設計画を巡る初の司法判断から1カ月が立ちます。翁長雄志沖縄県知事は、辺野古沿岸部の埋め立て承認取り消し処分を違法とした福岡高裁の判決を不服として上告し、判断は最高裁に委ねられました。先鋭化する政府と沖縄の対立。解決の糸口は見いだせるのでしょうか。沖縄、そして本土の視座で考えます。

時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。